

HEARING

藤本由紀夫

オルゴールを使って作品を作るようになって「小さな音」は耳の能力を増大させることがわかった。小さな音を聞くためには、耳を集中させる必要がある。作品を聞くために集中した耳は非常に敏感になり、その結果、作品が鳴り終わった後には、それまで気づいていなかった周りの騒音の存在を明確に知覚することになる。これは新鮮な驚きであった。

外の車の音、空調機の響き、遠くから洩れてくる話し声、…それらが波のように聞こえてきた。

オルゴールはゼンマイを巻いて鳴らした時がテンポが一番速く、時間が経つにつれて段々と遅くなっていくので、音と音の間隔が徐々に長くなっていき、最後の一音が、その音が鳴った時点では特定できない。

オルゴールの音に集中していると、オルゴールの音を聞いている状態から、オルゴールの音と音の「間」を聞く状態に知らぬ間に移行してしまうことになる。

「音を出す」行為ばかりでなく「音を聞く」行為もまた創造的な行為なのである。

小さな音を聞こうとして、耳の状態を少しだけ敏感にするだけで、日常の音の世界は一変する。

藤本由紀夫 『YUKIO FUJIMOTO objects, installations and performances』

西宮市大谷記念美術館, 1998年, p.48 に収録